

中醫古籍醫論薈萃

黃自立 編著

炎帝神農氏



和
醫
論
薈
萃



汕頭大學出版社

中醫古籍醫論精華

▼ 中醫基礎醫學

▼ 清代抄本方藥萃華

▼ 中醫臨床醫學

黃白立 編著

汕頭大學出版社

图书在版编目(CIP)数据

中医古籍医论荟萃/黄自立 编著

—汕头:汕头大学出版社,2003.10

ISBN 7-81036-690-4

I. 中… II. 黄… III. 医论—中医—先秦时代—清晚期 IV. R2-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 095260 号

中医古籍医论荟萃

责任编辑:刘志刚

出版发行:汕头大学出版社

广东省汕头市汕头大学内 邮编 515063

印 刷:重庆川康印务有限公司

开 本:787×1092 1/16

印 张:98

字 数:2634 千字

版 次:2003 年 10 月第 1 版

印 次:2003 年 10 月第 1 次印刷

定 价:298.00 元(上、下册)

版权所有,翻版必究

如发现印装质量问题,请与承印厂联系退换。

目 录

中医基础医学

致病家	(1)
致医家	(8)
儒佛历学通医论	(8)
医学流派论	(14)
论医	(18)
论医德	(18)
论医术	(22)
行医难	(28)
整体观念	(33)
辨证施治	(38)
运气学说	(41)
阴阳学说	(66)
五行学说	(73)
脏腑学说	(81)
论心与脑	(82)
论肝胆	(86)
论脾胃	(93)
论肺	(104)
论肾	(107)
命门学说	(112)
三焦学说	(115)
经络学说	(127)
气血精神论	(138)
气血学说	(138)
升降学说	(146)
精气神三宝论	(151)
体质学说	(155)
心理学	(162)
优生优育学	(168)
长寿学	(185)
养生学	(188)
病因学说	(194)

论风	(198)
论寒	(200)
论暑	(204)
论湿	(208)
论燥	(213)
论火	(217)
论痰饮	(222)
论瘀血	(230)
湿热学说	(233)
疫毒学说	(236)
诊断学	(248)
四诊	(248)
望诊	(250)
闻诊	(259)
问诊	(261)
切诊	(266)
八纲	(278)
内外伤辨	(286)
预测学	(292)
望诊	(292)
闻诊	(296)
切诊	(296)
四诊合参	(298)
八卦	(301)
伤寒死候	(301)
温病死候	(301)
杂病死候	(302)
小儿死候	(302)
小儿寿夭	(303)
除中症	(304)
疗学	(305)
治疗法则	(305)
未病先防,既病防变	(305)
辨证施治,活法随人	(306)
治病之道,必求其本	(308)

病有轻重,治分先后·····	(309)
知标知本,万举万当·····	(311)
扶正祛邪,治病准则·····	(313)
审因论治,治有逆从·····	(315)
医门八法,百法备焉·····	(319)
方剂学总论·····	(331)
中药学总论·····	(354)
护理学·····	(362)

清代抄本方药荟萃

《清代抄本中医秘方辑粹》·····	(370)
《清代抄本中医验方选编》·····	(420)
《清代抄本中医单方集锦》·····	(500)
《清代抄本中药炮炙考究》·····	(550)
《清代抄本中药制剂法》·····	(615)

中医基础医学

急诊科·····	(665)
总论·····	(665)
各论·····	(666)
胸痹心痛·····	(666)
中风·····	(670)
厥症·····	(679)
脱症·····	(686)
癰闭·····	(689)
各科急症·····	(696)
传染科·····	(710)
总论·····	(710)
各论·····	(711)
劳瘵·····	(711)
疟疾·····	(716)
痢疾·····	(725)
黄疸·····	(734)
湿温·····	(742)
霍乱·····	(747)
麻疹·····	(761)

痘疮·····	(766)
烂喉痧·····	(787)
大麻风·····	(791)
温病·····	(801)
总论·····	(801)
各论·····	(811)
春温·····	(811)
风温·····	(813)
暑温·····	(814)
冬温·····	(815)
肿瘤科·····	(817)
总论·····	(817)
恶性肿瘤·····	(817)
良性肿瘤·····	(819)
各论·····	(820)
噎膈·····	(820)
反胃·····	(830)
乳癌·····	(834)
癥瘕 积聚·····	(837)
瘰癧·····	(844)
内科·····	(849)
总论·····	(849)
各论·····	(850)
感冒·····	(850)
发热·····	(855)
咳嗽·····	(861)
哮喘·····	(869)
失音·····	(875)
肺痿·····	(878)
伤食·····	(881)
伤酒·····	(888)
呃逆·····	(890)
呕吐·····	(896)
泄泻·····	(904)
关格·····	(912)
痞满·····	(916)
胀满·····	(919)
臌胀·····	(921)

便秘	(924)	崩漏	(1137)
附:交肠病	(932)	带下	(1144)
痛症	(933)	妊娠恶阻	(1150)
头痛	(935)	胎漏	(1153)
胃脘痛	(942)	胎动不安	(1155)
胁痛	(946)	堕胎小产	(1157)
腹痛	(951)	产后血晕	(1161)
腰痛	(957)	阴挺	(1163)
水肿	(964)	前阴病	(1165)
消渴	(972)	阴吹	(1165)
虚劳	(978)	阴痒	(1165)
惊悸 怔忡 健忘 失眠	(991)	阴肿	(1167)
癫狂病	(1000)	阴疮	(1168)
眩晕	(1008)	儿科	(1170)
痉病	(1014)	总论	(1170)
血症	(1019)	各论	(1175)
吐血	(1025)	惊风	(1175)
衄血	(1030)	疳疾	(1182)
咳血	(1034)	外科	(1188)
便血	(1036)	总论	(1188)
尿血	(1040)	各论	(1212)
痹症	(1042)	痢	(1212)
痿症	(1049)	内痢	(1215)
郁症	(1056)	肺痢	(1215)
汗症	(1061)	肝痢	(1220)
疝气	(1074)	胃痢	(1220)
阳痿	(1089)	肚腹痛	(1221)
附:阳强不倒	(1092)	肠痢	(1222)
遗精	(1092)	外痢	(1227)
赤白浊	(1105)	脑痢	(1228)
淋症	(1109)	腮痢	(1228)
遗尿	(1115)	肩臂痢	(1228)
脱肛	(1120)	腋痢	(1229)
妇科	(1126)	乳痢	(1229)
总论	(1126)	悬痢	(1230)
各论	(1130)	便毒	(1231)
月经不调	(1130)	囊痢	(1232)
痛经	(1135)	背痢	(1234)

臀痈·····	(1235)	疥疮·····	(1306)
疽·····	(1236)	癣·····	(1309)
脑疽·····	(1237)	紫白癜风·····	(1311)
对口疽·····	(1241)	骨伤科·····	(1313)
鬓疽·····	(1242)	总论·····	(1313)
背疽·····	(1242)	各论·····	(1319)
脱疽·····	(1244)	骨折·····	(1319)
附骨疽·····	(1245)	脱臼·····	(1321)
多骨疽·····	(1248)	人咬伤·····	(1323)
发背·····	(1249)	狗咬伤·····	(1324)
流注·····	(1254)	蛇咬伤·····	(1324)
疮疡·····	(1256)	汤火伤·····	(1325)
头面疮·····	(1267)	破伤风·····	(1326)
肥疮·····	(1268)	眼科·····	(1330)
秃疮·····	(1268)	总论·····	(1330)
恶疮·····	(1268)	目·····	(1330)
坐板疮·····	(1269)	五轮八廓学说·····	(1333)
血风疮·····	(1269)	目病·····	(1340)
臃疮·····	(1270)	各论·····	(1347)
黄水疮·····	(1271)	迎风流泪·····	(1347)
漆疮·····	(1272)	目赤肿痛·····	(1348)
冻疮·····	(1273)	目昏眼花·····	(1351)
疔疮·····	(1274)	视物成双·····	(1352)
面疔·····	(1284)	视物颠倒 直视·····	(1352)
红丝疔·····	(1284)	近视·····	(1353)
天蛇毒 蛇头疔·····	(1285)	远视·····	(1354)
羊毛疔·····	(1286)	暴盲·····	(1355)
瘰癧·····	(1287)	色盲·····	(1356)
结核·····	(1292)	失明·····	(1356)
疖·····	(1293)	偷针眼·····	(1357)
鳃拱头 蜈蚣疔·····	(1294)	眼胞痰核·····	(1358)
斑疹·····	(1294)	漏睛疮·····	(1358)
丹毒·····	(1298)	烂弦风眼·····	(1359)
赤游丹·····	(1302)	拳毛倒睫·····	(1359)
缠腰火丹·····	(1304)	目珠突出·····	(1361)
无名肿毒·····	(1304)	翳障·····	(1362)
肾囊风·····	(1305)	内障·····	(1362)
疥癣·····	(1306)	外障·····	(1367)

青盲·····	(1369)	各论·····	(1412)
雀目·····	(1370)	齿动牙落·····	(1412)
蟹睛·····	(1371)	牙痛·····	(1412)
翳膜遮睛·····	(1372)	喉科·····	(1416)
胬肉攀睛·····	(1373)	总论·····	(1416)
外物伤目·····	(1375)	咽喉·····	(1416)
血灌瞳人·····	(1375)	咽喉病·····	(1418)
瞳神散大·····	(1376)	各论·····	(1421)
瞳神缩小·····	(1377)	咽喉肿痛·····	(1421)
耳科·····	(1378)	乳蛾·····	(1422)
总论·····	(1378)	喉痹·····	(1423)
耳·····	(1378)	缠喉风·····	(1426)
耳病·····	(1379)	针灸科·····	(1429)
各论·····	(1381)	总论·····	(1429)
耳鸣·····	(1381)	各论·····	(1447)
耳聋·····	(1383)	治病歌赋·····	(1447)
耳痛 脓耳·····	(1389)	诸病取穴举隅·····	(1453)
鼻科·····	(1391)	推拿按摩·····	(1456)
总论·····	(1391)	推拿·····	(1456)
鼻·····	(1391)	按摩·····	(1458)
鼻病·····	(1391)	气功·····	(1460)
各论·····	(1393)	痔漏科·····	(1471)
鼻渊·····	(1393)	总论·····	(1471)
鼻疮 鼻疔·····	(1395)	各论·····	(1473)
鼻痔 鼻息肉·····	(1396)	痔·····	(1473)
口齿科·····	(1399)	漏·····	(1485)
口腔科·····	(1400)	肠风·····	(1487)
总论·····	(1400)	脏毒·····	(1488)
各论·····	(1400)	性病科·····	(1490)
口臭·····	(1400)	总论·····	(1490)
口糜 口疮 口舌生疮·····	(1401)	各论·····	(1491)
鹅口疮·····	(1403)	阴蚀疮·····	(1491)
唇疮·····	(1404)	妬精疮·····	(1491)
缺唇·····	(1405)	天泡疮·····	(1492)
舌病·····	(1406)	杨梅疮·····	(1493)
舌断·····	(1408)	下疳·····	(1499)
牙科·····	(1409)	阴虱·····	(1502)
总论·····	(1409)	法医学·····	(1503)

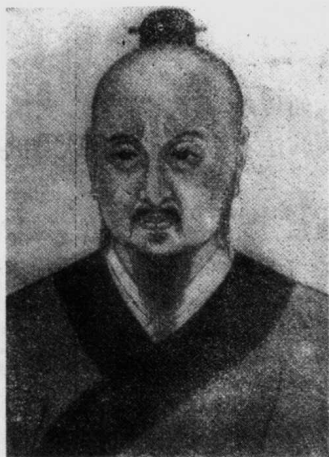
总论·····	(1503)
各论·····	(1507)
缢死·····	(1507)
溺死·····	(1508)
打死·····	(1509)
杀死·····	(1510)
自杀·····	(1511)
碾死·····	(1512)
压死·····	(1512)
跌死·····	(1512)
外物塞口鼻死·····	(1513)
汤泼火烧死·····	(1513)
虎咬死·····	(1513)
蛇伤死·····	(1514)
酒食醉饱死·····	(1514)

雷击死·····	(1514)
毒死·····	(1514)
病死·····	(1515)
惊风死·····	(1515)
饥饿死·····	(1515)
冻死·····	(1515)
针灸死·····	(1516)
作过死·····	(1516)
坏烂尸·····	(1516)

附：

何士哲老先生读《中医古籍医论荟萃》

书后·····	(1517)
引用书目·····	(1518)
难字表·····	(1534)



医圣张仲景著《伤寒杂病论》

急 诊 科

总 论

华佗云：人有急病，疾如风雨，命医不及，须臾不救，视其横夭，实可哀怜，予选十件急病，三十妙方以救之，不可不知。
(《东医宝鉴 杂病篇 卷九 救急 十件危病》)

华元化曰：人有危病，急如风雨，命医不及，须臾不救，观其横夭，实可哀怜。先府君有深慨于斯，因撰国字方书三卷……乃为世之鸿宝焉。
(《救急选方 序》)

一遇危急，察脉揣腹，审辨甄别，即与拯救耳。卒病暴疾，或有万无生机，而翻然致苏者，则呻吟窘迫，呼吸危亡之际，须竭心力，死中求活，此仁人之心术。
(《急救选方 凡例》)

治病如奕棋，当先救急。急者何？救其重而略其轻也。

(《医方类聚 卷之一 证治提纲 治病当先救急》)

医者遇病，宜先审其人之将死与否，若贸然定方与药，药纵无害，及死则必归咎于医者，虽百啄其难辞也。故欲攻医，宜先精相，相者何，望之义也。先生遇病者，先能知其人之寿夭，此非得自仙传，乃缘临症多使然耳。
(《华佗神医秘传 卷二 华佗治病笃要诀》)

神医华佗云：十般危证，急如风雨。

一危证：霍乱吐泻，或因饮冷，或冒寒，或失饥，或大怒，或乘车船，伤动胃气，令人上吐下泻不止，头旋眼花，手足转筋，四肢逆冷。

二危证：缠喉风，闭、肿、痛，手足厥冷，即时气闭不通。

三危证：吐血内损，或因酒色损伤心肺，血气妄行，口鼻俱出。

四危证：中砂毒，烦躁，心腹绞痛，头旋欲吐不吐，面青黑，四肢冷。

五危证：尸厥奄然死去，不省人事，腹中气走如雷鸣。

六危证：中鬼气，勿倒地，四肢冷，手握拳，鼻口出血。

七危证:脱阳,小腹急痛,肾缩面黑,气喘,冷汗自出。

八危证:鬼压、鬼击、房中被鬼打,作声,叫唤不省。

九危证:孕妇逆生。

十危证:胎衣不下,恶血凑心迷闷,胎衣逆上。 (《仙传外科秘方 卷之十 治诸杂证品》)

用药之道,惟危急存亡之际,病重药轻,不能挽救,非大其法不可。(《知医必辨 杂论十一条》)

凡病在危急,必得出奇制胜,方能速愈。 (《医学举要 卷四 治法合论》)

论曰:夫寻方学之要,以救速为贵,是以养生之家,常须预合成熟药,以备仓卒之急。

(《备急千金要方 卷九 伤寒上 伤寒例第一》)

备急丸

主诸卒死,暴疾百病,及中恶客忤,鬼击鬼打,面青口噤,奄忽气绝。

大黄 乾姜 巴豆霜各一两

右为末,蜜和,捣千杵,作丸小豆大。

卒死者,取三丸热酒吞下,口噤则以酒化灌之,下咽即活。

(《东医宝鉴 杂病篇 卷九 救急》)

【按】人命关天,救人贵急,稍有迟疑,生死立判。医者临证,一遇危急,务须竭尽心力,胆大心细,果断正确处治,以挽垂危。

各 论

胸痹心痛

心痛、胸痹、结胸,其脉其症,虽有异同,然皆心胸之病也。

(《皇汉医学丛书 中国内科医鉴 前篇 第十二章 胸痛》)

胸痛可治,真心痛危

心病者,胸中痛,肋支满,肋下痛,膺背肩甲间痛,两臂内痛。

(《黄帝内经素问 卷第七 脏气法时论篇第二十二》)

邪在心,则病心痛。

(《灵枢经 卷之五 五邪第二十》)

真心痛,手足青至节,心痛甚,旦发夕死,夕发旦死。 (《灵枢经 卷之五 厥病第二十四》)

……其痛甚,但在心,手足青者,即名真心痛。其真头心痛者,旦发夕死,夕发旦死。

(《难经 六十难》)

胸痹之病,喘息咳唾,胸背痛。

(《金匱要略 胸痹心痛短气病脉证治第九》)

心病,则胸中痛。

(《华氏中藏经 卷上 论心脏虚实寒热生死逆顺脉证之法第二十四》)

心为诸脏主而藏神,其正经不可伤,伤之而痛,为真心痛,朝发夕死,夕发朝死。

(《诸病源候论 卷十六 心痛病诸候》)

夫心痛者,由风冷邪气乘于心也。其痛发有死者,有不成病者。心为诸脏之主,而藏神,其正经不可伤,伤之而痛,为真心痛,旦发夕死,夕发旦死。 (《太平圣惠方 卷第四十三 心痛论》)

论曰:胸痛者,胸痹痛之类也。此由体虚挟风,又遇寒气加之,则胸膺两乳间刺痛,甚则引背胛,或彻背脊,咳唾引痛是也。

(《圣济总录 卷第六十一 胸痹门》)

真心痛,大抵心为诸脏之主,其正经不可伤,伤之而痛者,则手足青至节,朝发夕死,夕发旦死,不假履治。

(《世医得效方 卷第四 大方脉杂医科 心痛》)

胸痛即膈痛，其与心痛别者：心痛在歧骨骶处，胸痛则横满胸间也。

（《医宗必读 卷八 心腹诸痛》）

胸为心肺之室也。

（《症因脉治 卷一 外感胸痛》）

五脏及胆、心包络七经，筋脉俱至胸，是谓经之邪，皆得为胸痛。而胸者，肺之部分，则其痛尤多，属肺可知。

（《医编 卷三 杂症 胸痛》）

心为君主，义不受邪，若邪伤其脏而痛者，谓之真心痛。其症卒然大痛，咬牙噤口气冷，汗出不休，面黑，手足青过节，冷如冰，旦发夕死，夕发旦死，不治。

（《医编 卷三 杂症 心痛》）

胸痹、心痛，其病如二而一，均是为膈间疼痛之称。胸痹轻者仅胸中气塞，心痛重者为真心痛。

（《杂病广要 身体类 胸痹心痛》）

【按】胸为心肺所居，胸痛者，心肺之病。又胸痛、胸痹、结胸者，皆心胸之为病也。肺病胸痛尚可治，胸痹心痛之属真心痛者可卒死，故胸痛之辨治，尤当慎矣。

痰湿淤滞，胸痹心痛

师曰：夫脉当取太过不及，阳微阴弦，即胸痹而痛，所以然者，责其极虚也。今阳虚知在上焦，所以胸痹，心痛者，以其阴弦故也。

（《金匱要略 胸痹心痛短气病脉证治第九》）

心痛者，风冷邪气乘于心也。

（《诸病源候论 卷十六 心痛病诸候》）

论曰：寒气卒客于五脏六腑，则发卒心痛。胸痹，感于寒，微者为咳，甚者为痛。

（《备急千金要方 卷十三 心脏 心腹痛第六》）

夫胸痹心背痛者，由脏腑虚寒，风冷邪气，积聚在内，上攻胸中，而乘于心，正气与邪气交争，阳气不足，阴气有余，阴阳不和，邪正相击，故令心背彻痛也。

（《太平圣惠方 卷第四十二 治胸痹心背痛诸方》）

夫卒心痛者，由脏腑虚弱，风邪冷热之气，客于手少阴之络，正气不足，邪气胜盛，邪正相击，上冲于心，心如寒状，痛不得息，故云卒心痛也。

（《太平圣惠方 卷第四十三 治卒心痛诸方》）

夫心背彻痛者，由人脏腑虚弱，肾气不足，积冷之气，上攻于心，心气既虚，为邪所乘，则心与背俱痛而伛偻，如物从后所触，其心痛不可忍，故曰心背彻痛也。

（《太平圣惠方 卷第四十三 治心背彻痛诸方》）

论曰：虚极之人，为寒邪所客，气上奔迫，痹而不通，故为胸痹。

（《圣济总录 卷第六十一 胸痹门》）

论曰：体虚之人，寒气客之，气结在胸，郁而不散，故为胸痹。

（《圣济总录 卷第六十一 胸痹门》）

心痛诸候，皆由邪气客于手心主之脉。盖手少阴心之经，五脏六腑君主之官也，精神所舍，诸阳所合，其脏坚固，邪气未易以伤。是以诸邪在心，多在包络者，心主之脉也。

（《圣济》）

夫心为五官之主，百骸之所以听命者也。心之正经，果为风冷邪气所干，果为气血痰水所犯，则其痛掣背胀胁，胸烦咽干，两目赤黄，手足俱青至节，朝发而暮殂矣。

（《直指》）

心痛者，非真心痛也，乃心胞络与胃脘痛也。然果何以知之？盖心胞络护捧其心，脉络相系，位居心之四旁。火载痰而上升，碍其所居，胞络为痰相轧，故脂膜紧急而作痛，遂误认以为心痛也。

（《玉案》）

（《杂病广要 身体类 胸痹心痛》）

有真心痛者，大寒触犯心君，又曰：污血冲心，手足青过节者，旦发夕死，夕发旦死。

（《医学正传 卷之四 胃脘痛》）

古有患胸痹者，心中急痛如锥刺，不得俯仰。蜀医谓胸府有恶血故也。

（《医说》）引《名医

录》)

《《杂病广要 身体类 胸痹心痛》》

胸阳不布则胸痛。

《《神医汇编 卷五 内科 胸痛》》

有病久气血虚损,及素作劳,羸弱之人患心痛者,皆虚痛也。

《《证治准绳 卷四 心痛胃脘痛》》

胸痹之因,饮食不节,饥饱损伤,痰凝血滞,中焦混浊,则闭食闷痛之症作矣。

《《症因脉治 卷三 胸痹》》

外感胸痛之因,伤寒表邪未散,下之太早,内陷胸中。盖胸主半表半里,外邪内陷,与水饮互相盘结,则成结胸之症。若六淫之邪伤肺,肺热焦满,怫郁不宜,胸亦为之作痛,盖胸为心肺之室也。

《《症因脉治 卷一 外感胸痛》》

内伤胸痛之因,七情六欲,动其心火,刑及肺金;或怫郁气逆,伤其肺道,则痰凝气结;或过饮辛热,伤其上焦,则血积于内;而闷闭胸痛矣。

《《症因脉治 卷一 内伤胸痛》》

胸痹,胸中阳微不运,久则阴乘阳位,而为痹结也。

《《类证治裁 卷之六 胸痹论治》》

须知胸为清阳之分,其病也,气滞为多。

《《医碥 卷三 杂症 胸痛》》

【按】 胸为阳位,胸阳不旷,痰饮、水气、痰热、淤血交阻胸膈,痹而不通,故为心痛、胸痛、胸痹、结胸。

胸痛心痛,临证当辨

厥心痛,与背相控,善瘦,如从后触其心,伛倭者,肾心痛也;……厥心痛,腹胀胸满,心尤痛甚,胃心痛也;……厥心痛,痛如以锥针刺其心,心痛甚者,脾心痛也;……厥心痛,色苍苍如死状,终日不得太息,肝心痛也;……厥心痛,卧若徒居,心痛间,动作痛益甚,色不变,肺心痛也;……真心痛,手足清至节,心痛甚,旦发夕死,夕发旦死。

《《灵枢经 卷之五 厥病第二十四》》

胸痹之病,喘息咳唾,胸背痛,短气,寸口脉沉而迟,关上小紧数,瓜蒌薤白白酒汤主之。

《《金匱要略 胸痹心痛短气病脉证治第九》》

胸痹之病,令人心下坚满痞急痛,肌中苦痹,绞急如刺,不得俯仰,其胸前皮皆痛,手不得犯,胸中幅幅而满,短气,咳唾引痛,咽塞不利,习习如痒,喉中干燥,时欲呕吐,烦闷自汗出,或彻引背痛,不治之,数日杀人。

《《备急千金要方 卷十三 心脏 胸痹第七》》

若卒心痛,六脉沉微,汗出不止,爪甲青,足冷过膝,乃真心痛也,不治。

《《扁鹊心书 卷中 心痛》》

其症心下坚满痞急,甚者疔痛抢心如刺,手不得犯,治之稍缓,便致危殆,不可忽也。

《《圣济总录 卷第六十一 胸痹门》》

心痛者,非真心痛也,乃心包络与胃脘痛也。……平素原无心痛之疾,卒然大痛无声,面青气冷,咬牙噤齿,手足如冰冷者,乃真心痛也。

《《医学入门丹台玉案 四卷 心痛门》》

外感胸痛之症,初起表邪未散,下早闷痛,此伤寒门结胸症也。胸痛胀满,咳嗽气逆,不能仰卧,此六淫之邪伤于肺经,方书所谓肺胀胸痛也。若胸痛寒热,咳吐腥秽,又是肺痈之症。

《《症因脉治 卷一 外感胸痛》》

内伤胸痛之症,不因外感,胸中隐隐作痛,其痛缓,其来渐,久久不愈,饮食渐少,此内伤胸痛也。若见咳嗽寒热;吐痰腥秽,则是肺痈之症,而非胸痛也。

《《症因脉治 卷一 内伤胸痛》》

心痹之症,即脉痹也。脉闭不通,心下鼓暴,噤干善噫,厥气上则恐,心下痛,夜卧不安,此心痹之症也。

《《症因脉治 卷三 心痹》》

心当歧骨陷处,居胸膈下,胃脘上。心痛与胸脘痛自别也。心为君主,义不受邪,故心痛多属心

包络病。若真心痛,《经》言“旦发夕死,夕发旦死”。由寒邪攻触,猝大痛,无声,面青气冷,手足青至节。……《经》之论厥心痛,以诸痛皆肝肾气逆上攻致之。但分寒热二种:寒厥心痛者,身冷汗出,手足逆,便利不渴,心痛,脉沉细,术附汤;热厥心痛者,身热足厥,烦躁,心痛,脉洪大,金铃子散、清郁汤;凡暴痛非热,久痛非寒,宜审。 (《类证治裁 卷六 心痛论治》)

心痛之证有二:一则寒气侵心而痛,一则火气焚心而痛。寒气侵心者,手足反温;火气焚心者,手足反冷;以此辨之最得。 (《傅青主男科 卷下 心腹痛门》)

夫真心痛,原有两证:一寒邪犯心,一火邪犯心也。寒犯心者,乃直中阴经之病,猝不及防,一时感之,立刻身死。死后必有手足尽紫黑者,甚则遍身俱青,多非药食解救,以至急而不遑救也。倘家存药饵,用人参一二两,附子三钱,急煎救之,可以望生,否则必死。若火犯心者,其势甚急而犹缓,可以速觅药饵,故不可不传方法以救人也。余言前症,正火邪犯心也。但同是心疼,何以辨其一为寒而一为热?盖寒邪舌必滑,而热邪舌必燥耳! (《辨证录 卷之二 心痛门》)

如从胸痛至心,是肺心痛;从胃脘痛至心,是胃心痛;从胁痛至心,是肝心痛;从腰痛至心,是肾心痛;可类推之。 (《医碕 卷三 杂症心痛》)

故诸邪之在心者,皆在于心之包络。其心痛之与包络痛别者,包络之痛,在两乳中间;其与胃脘痛别者,心痛在歧骨陷处,胃脘痛在心之下;其与胸痛别者,胸痛在心之上,横满胸间也。但胸痛宜分属肺、属心、属肝,辨之既明,治之自效。 (《顾氏医镜 症方发明 卷十四 胃脘痛》)

胸痹与胸痞不同。胸痞有暴寒郁结于胸者,有火郁于中者,有寒热互郁者,有气实填胸而痞者,有气衰而成虚痞者,亦有肺胃津液枯涩,因燥而痞者,亦有上焦湿浊弥漫而痞者,若夫胸痹,则但因胸中阳虚不运,久而成痹。 (华玉堂)

(《临证指南医案 卷四 胸痹》)

【按】 心痛、胸痹、结胸,皆有胸痛症状,然各有病因不同,证候亦殊,尤有暴病卒死之真心痛,危急骇人,凡此皆当审辨也。

开胸顺气,除痰化淤

胸痹不得卧,心痛彻背者,瓜蒌薤白半夏汤主之。

胸痹心中痞气,气结在胸,胸满,胁下逆抢心,枳实薤白桂枝汤主之,人参汤亦主之。

(《金匱要略 胸痹心痛短气病脉证治第九》)

胸痹之病,胸中幅幅如满,噎塞,习习如痒,喉中涩,吐噪沫是也,桔皮枳实汤主之方。

(《小品方辑校 卷六 杂病门(中) 疗胸痹方》)

苏合香丸治卒暴心痛。

(《世医得效方 卷第四 心痛》)

又有病久气血虚损及素作劳,羸弱人患心痛者,皆虚痛也,有服大补之剂而愈者,不可不知。

死血作痛,脉必涩,……壮人用桃仁承气汤下,弱人用归尾、川芎、牡丹皮、苏木、红花、元胡索、桂心、桃仁泥、赤芍、番降香、通草、大麦芽、穿山甲之属煎成,入童便、酒、韭汁,大剂饮之,或失笑散。

(《证治准绳 卷四 心痛胃脘痛》)

初病宜温宜散,久痛宜补宜和。 (《机要》)

(《证治汇补 卷之六 腹胁门 心痛》)

心脉之上,则为胸膈;两乳之间,则为膺胸。胸膈痛,乃上焦失职,不能如雾露之溉,则胸痹而痛,薤白、蒺藜、茜草、贝母、豆蔻之药,可开胸痹以止痛;膺胸痛者,乃肝血内虚,气不充于期门,致冲、任之血,不能从膺胸而散则痛,当归、白芍、红花、银花、续断、木通之药,可和气血而止痛。

(《医学真传 心腹痛》)

喻嘉言曰:胸中阳气,如离照当空,旷然无外。设地气一上,则窒塞有加。故知胸痹者,阳气不

用，阴气上逆之候也。然有微甚不同，微者但通其不足之阳于上焦，甚者必驱其厥逆之阴于下焦。仲景通胸中之阳，以薤白、白酒，或瓜蒌、半夏、桂枝、枳实、厚朴、干姜、白术、人参、甘草、茯苓、杏仁、橘皮，选用对症三四味即成一方。不但苦寒尽屏，即清凉不入，盖以阳通阳，阴药不得预也。甚者用附子、乌头、川椒，大辛热以驱下焦之阴，而复上焦之阳。补天浴日，独出手眼。世医不知胸痹为何病，习用豆蔻、木香、诃子、三棱、神曲、麦芽等药，坐耗其胸中之阳，其识见亦相悬哉！

（《类证治裁 卷之六 胸痹论治》）

夫胸痹，则但因胸中阳虚不运，久而成痹。《内经》未曾详言，惟《金匱》立方，俱用辛滑温通，所云：寸口脉沉而迟，阳微阴弦，是知但有寒症而无热症矣。先生宗之加减而治，亦惟流运上焦清阳为主，莫与胸痞、结胸、噎膈、痰、食等症混治，斯得之矣。（华玉堂）（《临证指南医案 卷四 胸痹》）

不知厥心痛，为五脏之气，厥而入心胞络，而胃实与焉，则心痛与胃痛，不得不各分一门。今先生案中，闻雷被惊者，用逍遥散去柴胡，加钩藤、丹皮治之，以其肝阳上逆，不容升达，为之养血以平调也；积劳损阳者，用归、鹿、姜、桂、桃仁、半夏治之，以其劳伤血痹，无徒破气，为之通络以和营也；脾厥心痛者，用良姜、姜黄、茅术、丁香、草果、厚朴治之，以其脾寒气厥，病在脉络，为之辛香以开通也；重按而痛稍衰者，用人参、桂枝、川椒、炙草、白蜜治之，以其心营受伤，攻劫难施，为之辛甘以化阳也；方案虽未全备，然其审病之因，制方之巧，无不一一破的，果能举一反三，其义宁有尽乎。

（龚商年）

（《临证指南医案 卷八 心痛》）

胸痛在前面，用木金散可愈；后通背亦痛，用瓜蒌薤白白酒汤可愈；在伤寒，用瓜蒌、陷胸、柴胡等，皆可愈。有忽然胸痛，前方皆不应，用此方一付，痛立止。

（《医林改错 血府逐瘀汤所治之症目》）

湿邪郁遏，阳气不宜，外寒里热，胸满溺赤，宜开达上焦。胸中为阳之位，阳气不布，则窒而不通，宜温通。

（《柳选四家医案 静香楼医案 卷下 痹气门》）

胸为肺之分野，治以散结、顺气、化痰为主。

（《医理汇精 上卷 胸痛》）

【按】胸痛乃心肺病变，肺热者，清热肃肺；痰热者，清热化痰；心阳不振、痰饮、水气凌心者，温通心阳、化痰利水；气郁者，开胸顺气；血瘀者，活血化淤。要言之，当循辨证求因，审因论治之通则耳。

中 风

喻昌曰：中风一症，动关生死安危，病之大而且重，莫有过于此者。

（《医门法律 卷三 中风门》）

中风一症，动关生死

夫人禀五常，因风气而生长，风气虽能生万物，亦能害万物，如水能浮舟，亦能覆舟。

（《金匱要略 脏腑经络先后病脉证第一》）

夫风之为病，当半身不遂……脉微而数，中风使然。

寸口脉浮而紧……浮者血虚，络脉空虚；贼邪不泄，或左或右；邪气反缓，正气即急，正气引邪，喎僻不遂。

邪在于络，肌肤不仁；邪在于经，即重不胜；邪入于腑，即不识人；邪入于脏，舌即难言，口吐涎。

（《金匱要略 中风历节病脉证并治第五》）

夫风为天地浩荡之气，正顺则能生长万物，偏邪则伤害品类，人或中邪风，鲜有不致毙者，故人

脏则难愈。……故推为百病长，圣人先此以示教，太医編集，所以首论中风也。

（《三因极一病证方论 卷之二 叙中风论》）

又论：夫中风者，风气中于人也。卒然中风，神昏如醉，四肢不收，涎潮于上，声如牵锯，牙关紧急，汤药不能下咽，命在须臾。但眼闭口干，声如鼾睡，遗尿者，皆所不治。

（《重订严氏济生方 诸风门 中风论治》）

谨按：中风之病，古方冠诸方首，以其为人之大病也。

（《医方类聚 卷之十四 诸风门 玉机微义 中风门》）

中风，为百病之长，乃气血闭而不行，此最重疾。

中血脉，则口眼喎斜；中腑，则肢节废；中脏，则性命危急。（《李杲十书》）

（《中国医药汇海 第三编 论说部 病症分类 中风》）

姜礼云：按：中风一症，医书冠之篇首，其症大矣。……虚风内发之症，一如天地间之疾风暴雨，迅不及掩。故“风”之一字命名，意可见也。

（《中医各家学说 下篇 临床各科学说 第一章 杂病学说》）

【按】 中风卒倒，不省人事，口眼歪斜，语言蹇涩，半身不遂，轻者可疗，重则难救，诸方书列为首论者，以其为人之大病，动关生死也。

中风缘由，痰热虚痰

血之与气，并走于上，则为大厥。（《黄帝内经素问 卷第十七 调经论篇第六十二》）

甘肥贵人，则高粱之疾也。（《黄帝内经素问 卷第八 通评虚实论篇第二十八》）

诸风掉眩，皆属于肝。（《黄帝内经素问 卷第二十二 至真要大论篇第七十四》）

夫中风者，皆因阴阳不调，脏腑气偏，荣卫失度，气血错乱，喜怒过伤，饮食无度，嗜欲恣情，致于经道或虚或塞，体虚而腠理不密，风邪之气中于人也。

（《医方类聚 卷之十三 诸风门一 和剂指南 论中风证候》）

论曰：《内经》谓：“邪风之至，疾如风雨。”言邪之迅速如此。卒中风之人，由阴阳不调，腑脏久虚，气血衰弱，荣卫乏竭，故风之毒邪，尤易乘间而入。卒致仆倒闷乱，语言蹇涩，痰涎壅塞，肢体痹痹，不识人事者，此其证也。

（《圣济总录 卷第六 卒中风》）

夫脏腑久虚，气血衰弱，腠理开泄，阴阳不和，真气散失，荣卫虚竭，邪气毒风，从外而入，伤于经络，故名卒中风也。

（《太平圣惠方 卷第二十 治卒中风诸方》）

《医经》云：“夫风者，百病之长也。”由是观之，中风在伤寒之上，为病急卒。……大抵人之有生，以元气为根，荣卫为本，根本强壮，荣卫和平，腠理致密，外邪客气焉能为害？或因喜怒，或因忧思，或因惊恐，或饮食不节，或劳役过伤，遂致真气先虚，荣卫失度，腠理空疏，邪气乘虚而入。

（《重订严氏济生方 诸风门 中风论治》）

今时之人不然也，以酒为浆，以妄为常，醉以入房，以欲竭其精，以耗散其真，不知持满，不知御神，务快其心，逆于生乐，致阴阳不调，脏腑气偏，荣卫失度，气血错乱，经络空虚，腠理不密，外邪因得以伤之。

（《医方类聚 卷之十三 诸风门一 简易方 中风论》）

夫中风者，皆因阴阳不调，脏腑气偏，荣卫失度，气血错乱，喜怒过伤，饮啖无节，恣情嗜欲，致于经道或虚或塞，体虚而腠理不密，风邪之气乘虚而中人也。其状涎潮昏塞，不省人事，舌强不能言，此等疾证，鲜有不毙者。

（《医方类聚 卷之十三 诸风门一 管见大全良方 中风证治》）

俗云风者，言末而忘其本也，所以中风瘫痪者，非谓肝木之风实甚而卒中之也，亦非外中于风尔。由乎将息失宜，而心火暴甚，肾水虚衰，不能制之，则阴虚阳实，而热气怫郁，心神昏冒，筋骨不

用，而卒倒无所知也。

（《素问玄机原病式 卷之二 火类》）

中风者，非外来风邪，乃本气病也。凡人年过四旬，气衰者多有此疾，壮岁之际无有也。若肥盛则间有之，亦形盛气衰。

（《医统正脉全书 医学发明 中风有三》）

东南之人，多是湿土生痰，痰生热，热生风也。

（《丹溪心法 卷一 中风一》）

近代刘河间、李东垣、朱彦修三子者出，所论始与昔人异矣。河间曰：“中风瘫痪者，非谓肝木之风实甚而卒中之，亦非外中于风，由乎将患失宜，心火暴甚，肾水虚衰，不能制之，则阴虚阳实，而热气怫郁，心神昏冒，筋骨不用，而卒倒无所知也。多因喜怒思悲恐五志有所过极而卒中者，由五志过极，皆为热甚故也。俗云：风者，言其末而忘其本也。”东垣曰：“中风者，非外来风邪，乃本气病也。凡人年逾四旬，气衰之际，或因忧喜忿怒，伤其气者，多有此疾，壮岁之时无有也；若肥盛则间有之，亦是形盛气衰而如此。”彦修曰：“西北气寒，为风所中诚有之矣；东南气温而地多湿，有风病者，非风也，皆湿土生痰，痰生热，热生风也。”三子之论，河间主乎火，东垣主乎气，彦修主乎湿，反以风为虚象，而大异于昔人矣。……以予观之，昔人三子之论，皆不可偏废……辨之为风，则从昔人以治，辨之为火、气、湿，则从三子以治，如此庶乎析理明而用法当矣。（《东垣十书 医经溯洄集 中风辨》）

人之—身，血气既虚，阴阳不守，饮食居处，嗜欲无节，冲风卧地，调护不加，于是经络空疏，腠理开彻，风邪乘其虚而入之，中风诸风皆是物耳。

（《医方类聚 卷之十三 诸风门一 直指方 风论》）

中风大率主血虚，有痰。

（《丹溪心法 卷一 中风一》）

夫中风者，虚风中于人也。（《新编妇人良方补遗大全 卷之三 妇人中风诸症方论第一》）

愚按：《脉诀》云：热则生风。故云：风自火出。（《薛氏医按 明医杂著 卷之二 痰饮》）

今其气血并走于上，则阴虚于下，而神气无根，是即阴阳相离之候，故致厥脱而暴死，复反者轻，不反者甚，此正时人所谓卒倒暴仆之中风，亦即痰火上壅之中风。（《景岳全书 卷之十一 厥逆》）

非风一症，即时人所谓中风症也。此症多见卒倒，卒倒多由昏愦，本皆内伤积损颓败而然，原非外感风寒所致。而古今相传，咸以中风名之，其误甚矣。故余欲易去中风二字，而拟名类风，又欲拟名属风，然类风、属风，仍与风字相近，恐后人不解，仍尔模糊，故单用河间、东垣之意，竟以非风名之，庶乎使人易晓，而知其本非风症矣。

（《景岳全书 卷之十一 非风》）

总按补：《医学指迷》云：夫木必先枯也，而后风摧之；人必先虚也，而后风入之。气虚之人，腠理不密，故外风易袭；血虚之人，肝木不平，故内风易作。盖虚之所在，邪必凑之，腑虚则中腑，脏虚则中脏，血脉虚则中血脉。……中腑后幸而得愈，若不戒酒色，不避风寒，必复中。中必在脏，虽神仙亦莫能治，盖由浅以及深也。

（《明医指掌 卷二 真中风一》）

夫人似乎无恙而卒然中风者，岂一朝一夕之故哉。盖内必先腐也，而后虫生之；土必先溃也，而后水决之；木必先枯也，而后风摧之：夫物且然，而况于人乎！《经》曰：“邪之所凑，其气必虚。”风岂能以自中人乎，亦人之自受乎风耳。使其内气充足，精神完固，则荣卫调和，腠理缜密，虽有风，将安人乎？惟其不戒暴怒，不节淫欲，或饥不暇于食，或寒不暇于衣，或嗜酒而好色，或勤劳而忘身，或当风而沐浴，或大汗而行房，或畏热而露卧，或冒雨而奔驰，以致真元耗亡，气血消尽，大经细络，积虚弥年。平时无甚痛苦，而不知荣卫皆空，徒存躯壳，正犹无心之木，将折未折，无基之墙，欲颓未颓，其势已不可支，而方且自谓无恙，遂昧而不知戒，一旦为贼风所袭，如剧寇操刃，直入无人之境，势如破竹，不移时而皆溃，则杯酒谈笑之间，举步转移之顷，卒然颠仆，顿为废人，不亦重可骇哉！由是观之，虽由外风之中，实因内气之虚也。

（《医学入门丹台玉案 卷之二 中风门》）

人身之血，内行于脉络，而外充于皮毛，渗透肌肉，滋养筋骨，故百体平和，运动无碍。若气滞则血滞，气逆则血逆，得热则淤浊，得寒则凝涩，衰耗则顺行不周，渗透不遍，而外邪易侵矣。津液者，